

氏名	鍛治園 誠
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5475号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Incidence and Risk Factors of Osteonecrosis of the Jaw in Advanced Cancer Patients after Treatment with Zoledronic Acid or Denosumab: A Retrospective Cohort Study (進行がん患者へのゾレドロン酸およびデノスマブ投与による顎骨壊死の発現頻度とリスク因子解析：後方視的コホート研究)
論文審査委員	教授 尾崎敏文 教授 西崎和則 教授 飯田征二

学位論文内容の要旨

ゾレドロン酸およびデノスマブは骨転移を有するがん患者の骨関連事象を予防するために有用な薬剤ではあるが、有害事象として治療関連顎骨壊死 (medication-related osteonecrosis of the jaw; 以下MRONJ) が報告されている。しかしながら、その危険因子についての詳細な報告は少ない。そこで我々は、がん患者においてゾレドロン酸およびデノスマブで加療された際のMRONJの発現頻度および危険因子について解析を行った。発生頻度はゾレドロン酸やデノスマブの投与期間および投与回数と正の相関を示した。また、糖尿病や貧血を合併している患者および投与前より口腔内に排膿箇所があった患者のMRONJの発生頻度は有意に上昇した。一方、投与期間が長期間に及んだ場合であっても定期的に歯科を受診し、メンテナンスを受けている患者の発現頻度は有意に低かった。多くの効果的な抗悪性腫瘍剤が開発され生命予後が改善されてきたことで、ゾレドロン酸やデノスマブの投与期間は長期化する傾向にある。本研究により、口腔内状態を良好に保つために定期的に歯科的なメンテナンスを行うことでMRONJの発症頻度を低下させ、患者QOLの維持・向上に寄与できることが明らかとなった。

論文審査結果の要旨

ゾレドロン酸およびデノスマブは骨転移を有するがん患者の骨関連事象を予防するために有用な薬剤であるが、有害事象として治療関連顎骨壊死 (medication-related osteonecrosis of the jaw ; 以下 MRONJ) が報告されている。そこで著者らは、がん患者においてゾレドロン酸およびデノスマブで加療された際の MRONJ の発現頻度および危険因子について解析を行った。発生頻度はゾレドロン酸やデノスマブの投与期間および投与回数と正の相関を示した。また、糖尿病や貧血を合併している患者および投与前より口腔内に排膿箇所があった患者の MRONJ の発生頻度は有意に上昇した。一方、投与期間が長期間に及んだ場合であっても定期的に歯科を受診し、メンテナンスを受けている患者の発現頻度は有意に低かった。本研究により、口腔内状態を良好に保つために定期的に歯科的なメンテナンスを行うことで MRONJ の発症頻度を低下させ、患者 QOL の維持・向上に寄与できることが明らかとなった。これは重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。